

施設職員が実践発表

副大臣も視察 介護技術持ち寄る

神奈川県

神奈川県の高齢者福祉施設で働く職員たちが日々の実践や研究成果、介護技術などを、約2000人が参加した。同県社会福祉協議会などが主催し、今年で16回目の開催。橋本岳・厚生労働副大臣も視察に訪れた。



橋本・厚労副大臣も視察に訪れた発表会

法人が手を取り合い、人事異動の幅が狭くて職員が多様な経験を積む場が限られるという「人材育成」の課題の克服に取り組んだプレゼンなどがあった。

「実技型プログラム」「介護技術発表」では、日常の業務で職員が向き合う場面を4部門①レクリエーションの実践②移動介護③認知症ケア④緊急時対応「ノロ発生時の対応」——に分け、部門ごとに合わせて19組が発表した。

同県内の92法人が福祉施設を紹介するオンラインプログラムも設け、福祉業界は職員らがへの就職を目指す学生「排泄・入浴」ながら、「ケア」「認知症ケア」「人材育成」を伝えた。

実行委員長の赤間源太郎・特別養護老人ホーム縁JOY施設長は「私たちは技術や知識をしっかりと持って仕事に取り組んでいる。この大会を続けること」で、施設同士の研さんや県民のみなさんへのPRにつなげたい」と話した。

小規模な三つの社会福祉 (千葉才子)